

# 長野県開田高原における木曾馬文化と 草地の再生を軸にした地域づくり

活動地域 長野県

特別助成  
**2**年目  
知識の提供・普及啓発

勉強会6回の参加者数	<b>70</b> 人
伝統的な草地管理と植生調査	<b>10</b> 人
今年度計画の達成度	<b>80</b> %
全体計画の達成度	<b>80</b> %



木曾馬と草原のつながりを学ぶボランティア

## 苦勞した点と工夫した点

### ■苦勞した点

研究者にも地元団体にとっても地域外からボランティアを受け入れる調査の運営が初めてであったため、効率的な運営を行うことが難しく、協議を重ねた点。

### ■工夫した点

木曾馬文化を軸にした地域づくりの勉強会を、地域の文化や自然関連のイベントと連携して開催し、これまで接点のなかった地域住民へ新たにアプローチできた点。

## 課題

開田高原において、伝統的な草地管理が継続的に行われて草原環境の生態系が保全されること、木曾馬の文化を核とした地域の人的・物的資源が地域振興に役立てられること。

## 目標

長野県木曾町において木曾馬の文化が復活し、開田高原の草地利用が促進され、草原環境の生物多様性が保全されること。

## 活動内容と成果

6月18-19日及び9月10-11日に1泊2日で伝統的な草地管理と植生調査プログラムを実施し、地域外から各回5人・計10人の調査ボランティアを得て調査を行った。それにより、伝統的な草地管理を導入した地域で開花植物の種類と花の数が大きく回復していることがわかった。昨年度収録した映像を編集・制作する過程で木曾馬の文化資源の活用について協議したほか、勉強会を6回開催し、地域での認知度向上を図った。



研究者の指導による植物調査の様子

## 全助成期間の活動を振り返って

本活動を通じて「木曾馬文化と草原の再生チーム」というコンソーシアムを設立し、定期的な勉強会や活動を開催した。それにより、既存の連携機関はもちろん、地域との良好な関係を築くことができた。本活動により地元団体に若手人材が加入し、2023年度には主体的に本活動を担うこととなった。今後も木曾馬を軸とした地域創生ビジョンと地域の人的資源をしっかり結びつけ、本活動の目標に向けて活動を推進していきたい。



木曾馬と草原の再生を学ぶ勉強会

〒113-8657  
東京都文京区弥生1-1-1  
東京大学大学院農学生命科学研究科フードサイエンス棟  
電話：03-6686-0300  
E-mail：info@earthwatch.jp  
HP：https://www.earthwatch.jp



## 今後の展望

今後も植生調査や伝統的な草地管理に関わる機会を創出するほか、木曾馬文化と草原のつながりが見える化していく。来年度からは地元団体が主体となり、人的資源の不足を、関係人口の増加によって解決を目指していく予定である。また、本活動の成果をもとに、将来的にはエコツーリズムの情報発信、伝統的な草地管理や学術調査を通じた草原環境の再生、木曾馬を活用したコミュニティビジネス等の事業化を地域で検討していく。